

雑報

553.462 : 550.85 (521.14)

秋田県彌生鉱山調査報告

本鉱山は秋田県由利郡笹子村にあり、奥羽本線院内駅の西方直距離約8km 彌生沢に位置する。

地質は第三紀中新世中部にあたる緑色凝灰岩とこれを貫ぬく石英粗面岩とからなり、また地域東縁には角閃石英安山岩が分布する。

鉱床は緑色凝灰岩および石英粗面岩中に胚胎する裂隙充填鉱床で、主要な鉱脈は2条である。

第1号鍾は石英粗面岩中に胚胎する走向 N 70°W, 傾斜 60°S の鉱脈で、立入坑で着脈し、東西に約 100 m 鍾押されている。

ほとんど採掘跡で、鍾幅は 20~30 cm であるが、西押引立では 5 cm にせばまり劣勢となっている(銅品位 4~5%)。

第2号鍾は凝灰岩中の鉱脈で、走向 N 60~80°E, 傾

斜 70~80°N を示す。

坑道は1番坑から3番坑まであり、1番坑から3番坑までの間隔は71m である。3番坑は崩壊して入坑できないが、2番坑では東西に約 270 m 鍾押している。

鍾幅は 30~120 cm を示すが、上盤際 10~40 cm が良好で、この部分の銅品位は 7~9% を示す。

鉱石は黄銅鉱・黄鉄鉱を主とし、脈石として石英を伴なう。

現況は従業員7名で操業し、昭和26年から昭和29年10月までに約 500 t (Cu 5~6%) の鉱石を産出し、小坂鉱業所に送鉱している。

今後の探鉱は第2号鍾の下部および鍾押探鉱が最も必要で、特に2番坑地並西押引立断層先の探鉱が必要である。(調査: 奥海 靖 抄録: 高島)

553.462 : 550.85 (521.82)

島根県大東鉱山のモリブデン鉱床の概要

大東鉱山は島根県大原郡大東町字東阿用に位置する。調査当時の稼行鉱床は1条の含モリブデン石英脈で、おもむね走向 N 35~40°E, 傾斜平均 17°NW を示し、塩基性混成岩・黒雲母花崗岩および黒雲母半花崗岩を貫ぬき、煌斑岩および閃緑玢岩の岩脈によつて貫ぬかれる。

モリブデン鉱は微細な結晶にして、縞状に配列する場合が多く、しばしば磁鉄鉱および黄銅鉱を伴ない、全般的に黄鉄鉱の生成が目立っている。

すなわち採掘部の平均品位は MoS<sub>2</sub> 約 3.5%, 坑道加脊に対して MoS<sub>2</sub> 0.5~0.6% を示しており、葉片状のモリブデン鉱が密集することがきわめて多く、薄板状

の富鉱部は随所において MoS<sub>2</sub> 10~13% の品位を示す。

坑内掘によつて確かめられた石英脈の規模は走向延長約 350 m, 傾斜延長約 100 m, 脈幅 10~50 cm である。膨縮は比較的少なく、末端部は走向が乱れ、石英が減少し、脈が分岐し、さらに数条の細脈となつて尖滅する。

手選精鉱は特上, MoS<sub>2</sub> 18~25%, 上鉱 MoS<sub>2</sub> 7~10%, 普鉱 MoS<sub>2</sub> 4~6%, 普下 MoS<sub>2</sub> 3% 土である。特上および上鉱は全出鉱量の数% に止まり、開発が進んだ調査当時でも MoS<sub>2</sub> 1.5~2% 程度の鉱石も浮選にかけられていた。(調査: 上野三義・土井啓司 抄録: 宮本)

553.31 : 550.85 (521.85)

山口県豊神鉱山鉄鉱鉱床調査報告

昭和29年9月6日から6日間にわたり山口県豊浦郡豊田下村高山の豊神鉱山の鉄鉱床を調査した。鉱床は古生層中の珪岩の下盤の圧碎帯中に生成された交代鉱床で不規則塊状ないし網状の形態をとり、厚さ数 cm から数 10 cm の扁平な小鉱塊からなり、連続性に乏しい。露頭は丘および東長野の2カ所に認められた。各露頭附近の概況は右表に示される通りである。

おもな鉱石鉱物は磁鉄鉱で、一部赤鉄鉱となる。調査

場 所	走 向	傾 斜	Fe 品位 (%)
丘 東 長 野	N30~50°W	30~40°N	52 ~ 57
	N20°W	50°N	53

当時までに稼行されたのは露天掘可能な部分のみである。露頭の賦存状況からチャート層の下盤に沿つて鉱床の存在が予想される。今後の開発には物理探鉱および坑内探鉱を必要とする。(調査: 土井啓司, 抄録: 宮本)